

## 子育て支援センターにおける学生支援スタッフ活動を通じた学び

－「保育内容V」・「言語表現」・「音楽科指導法」の教材を活用した実践活動から－

初等教育科 仲嶺まり子 安部えつ子 吉村壮明 高濱正文

### 【要旨】

本稿は、初等教育科小学校・幼稚園コースの学生を対象に実施した「こどもルーム学生支援スタッフ活動」における学びについての調査研究である。活動を通しての具体的な学びや効果を明らかにすることを目的に、活動終了時にアンケート調査を実施し、それらを集約分析した。その結果、子どもの姿を見て臨機応変に対応するなどの技術向上が見られたこと。さらに、子どもと同じ目線、肯定的な声かけや笑顔、自由に発想させることの大切さ等の記述からは、子どもを見る視点、援助や指導手法に関する質の向上が窺われ、「こどもルーム学生支援スタッフ活動」が小学校教員養成において有用な活動であることが明らかになった。

### 1 はじめに

平成25年7月20日大分駅南口駅前広場直近に大分駅南地区の中核的な複合文化交流施設として「ホルトホール大分」が開館した。翌年3月に、ホルトホールまつりが開催され、本学初等教育科の研究会の学生たちがホルトホール2階の子育て交流センター中央こどもルームにおいて、「音楽紙芝居」（表現遊び研究会）や「パネルシアター」（パネルシアター研究会）、「人形劇」（人形劇研究会）や「オペレッタ」（ふれあい遊び研究会）の公演を行った。この公演がきっかけとなり、中央こどもルームと初等教育科との交流が始まり、学生たちがルームで「読み聞かせ」などを行うようになった。

そこで、大分市子育て支援課子育て交流センターと別府大学・別府大学短期大学部が相互に連携・協力するために、平成27年4月に「こどもルーム学生支援スタッフ活動」に係る事業協定を締結し、子育て支援事業を共同実施するこ

ととなった。協定内容は、「別府大学短期大学部は、大分市子育て交流センターに学生を派遣し、学生に子育て支援事業に主体的に関わらせ、センターの事業実施に協力すること」、「大分市子育て交流センターは、別府大学短期大学部の学生を子育て支援パートナーとして受け入れ、学生の保育・教育の向上を図るボランティア活動に協力すること」とし、来館者が多い土・日・祝日に実施することとした。これを受けて初等教育科では、1年次後期と2年次前期にこどもルーム実習「学生支援スタッフ活動」を企画し、事業は平成27年6月からスタートした。学生達は、活動開始前には不安な様子も見られたが、活動が終わる頃には、明るく生き活きとした表情で、活動を終えた安堵感と充実感を窺い知ることができた。

そこで、このような「こどもルーム学生支援スタッフ活動」を通しての学びを明らかにするためにアンケート調査を実施し、その効果を検

証することにした。

## 2 学生支援スタッフ活動の実施内容

学生支援スタッフ活動は、初等教育科小学校・幼稚園コースの学生を対象にグループ活動として実施した。このコースには、保育所実習科目の設定がなく、3歳未満児と出会う機会が少なくと考えられることから、3歳未満児親子の来館の多いこどもルームでの体験実習を計画した。

### 【活動の目的】

学生支援スタッフ活動の体験を通して、子ども遊ぶ姿・親子の様子・子どもとの関わり方・こどもルームの役割について学ぶことを目的とした。

### 【期間】（表1, 2）

- ・1年後期（平成28年10月～12月）
- ・2年前期（平成29年 6月～7月）

### 【教材活用対象科目】

- ・1年後期「保育内容V」（幼二種免必修）
- ・1年後期「言語表現」（保育士資格必修）
- ・2年前期「音楽科指導法」（小二種免選択必修）

### 【対象学生】

- ・「1年後期」初等教育科小幼コース平成28年度入学生28名（5グループ、各約5～6名）
- ・「2年前期」同14名（4グループ、各約3～4名）

### 【場所】

大分市子育て交流センター中央こどもルーム（1102㎡、広々とした空間）

### 【支援活動の対象】

- ・こどもルーム<sup>1)</sup> 来館親子約30組～60組

### 【当日の流れ】

- ・ルームスタッフによるオリエンテーション（15分）
- ・練習及び道具の準備（30分）
- ・大型絵本等の読み聞かせ（20分）写真1
- ・親子とのふれあい遊び（10分）
- ・学生支援スタッフ活動（60分）

- ・ルームスタッフとの反省会（15分）



写真1

### 【主な内容】

活動は、まず始めに手遊びを行い、次に大型絵本の読み聞かせとエプロンシアターの公演、2年前期は、そのうちのいずれかと楽器を使った活動（表1, 2）を行った。その後、ルームスタッフによる指導でCDに合わせて、学生と子ども、親子と一緒に「バスにのって」等のふれあい遊びで交流した。遊びを通して、学生と子どもたちの緊張が和らいだところで、学生支援スタッフ活動を開始した。

学生はルームの中のさまざまなエリア（ハイハイの丘・えほんの草原・ぼうけんの森・まなびの小道・つみ木の林・ごっこのお家・そうさくの空・リズムの泉）を移動しながら、保護者が赤ちゃんを抱っこしていて他の兄弟姉妹と遊ぶことができない親子に声をかけて兄弟姉妹の遊びをサポートしたり、遊び道具の保管場所を教えたり等、親子の遊びの妨げにならないように配慮しながら、ルームでの遊びの充実に向けて支援を行った。このような、活動に関する打ち合わせやルーム内での諸注意については、訪問する週の水曜日に定期的にオリエンテーションを実施し周知を図った。

## 3 研究の目的と方法

### （1）研究の目的

こどもルームにおける「学生支援スタッフ活

動」の学びを調査することで、こどもルーム実習の具体的な効果や課題を明らかにし、適切な活動内容の考案や教材の有効な活用に役立てることを目的とした。

## (2) 研究の方法

学生支援スタッフ活動を通しての学びについて課題シートによるアンケートを実施。課題シート各項目は自由記述とし、活動後1週間以内に該当科目担当者に提出することとした。提出された課題シートの記載内容を集約し、具体的な学びについて分析を行った。

## (3) 課題シートの項目

### 1) 第1回1年後期アンケート項目

#### ①「公演について」

子どもの前で演じた感想及び子どもや親の鑑賞の様子について自由記述で回答。

#### ②「学生支援スタッフ活動の学び」

学生支援スタッフ活動を通しての学びについて自由記述で回答。

### 2) 第2回2年前期アンケート項目

①学生支援スタッフ活動は、小学校教員になる上で役に立つかどうかについて5段階評価で回答し、その理由を記載。

#### ②「簡易楽器指導について」

簡易楽器（すず・カスタネット・タンバリン・たまごマラカス）を使った指導の学びについて5段階評価で回答。

③前項②の具体的な内容及び感想を自由記述で回答。

#### ④「公演について」

子どもの前で演じた感想を第1回目と比較して自由記述で回答。

#### ⑤「学生支援スタッフ活動の学び」

学生支援スタッフ活動を通しての学びについて自由記述で回答。

## 4 結果と考察

表3は、第1回1年後期アンケート結果の抜

粋（2年次継続参加者のみ掲載）である。項目①「公演について」の感想では、導入時の学生達の手遊びに合わせて、子どもたちが一緒に手遊びをしたり歌ったり、親が子どもに手を貸している姿等を見て、嬉しくて緊張がほぐれる様子の記述が多く見られた。0～3歳児親子を主な対象とした公演では、手遊びの導入によって人前で演じる不安や緊張が徐々に緩和し、公演への集中力や意欲が高まったと考えられる。次の「大型絵本の読み聞かせ」や「エプロンシアター」では、子どもたちがじっと集中して見てくれたこと、問いかけに対して子どもたちの反応が良かったことを喜んでいる反面、練習不足や絵本の内容が年齢に適していなかったのではないかという反省の記述も見られた。子どもたちの反応にやりがいを感じた反面、絵本の選択基準や練習の重要性への気づきは、実践を通しての貴重な学びと考えられる。

項目②「学生支援スタッフ活動の学び」では、子どもなりの世界を作ってその中で遊ぶ姿を見出したこと、ふれ合うことが得意な子や1人でもくもくと遊んでいる子がいること等さまざまな子どもの姿が記載され、不特定の親子や幅広い年齢の子どもが来館することもルームならではの多様な子どもの姿が捉えられている。保護者の様子についても、子どもと一緒に遊んでいる保護者、スマホをいじる保護者、子どもを見守りながら時々アドバイスをする保護者、子どもの年齢によって対応が違う、保護者同士で会話をしている等が記載され、さまざまな親子の日常的な関わりを見ることで、親の思いや愛情を感じると共に子どもへの接し方についての学びが示されている。これらの記述からこどもルームは、子どもや保護者の姿を捉える学びの場としても有用であると考えられる。

「ルームの役割」としては、地元でない人も利用できる場所であること、親子の関わりを大切にしていること、ルームで出会って情報交換

や交流が広がること、思いっきり遊べる場所であること等が記載され、こどもルームが地域の子育て支援にとって大切な場所であるとの考えが示されている。

表4は、第2回2年前期アンケート結果(1)(2回継続参加者のみ掲載)である。項目①「学生支援スタッフ活動が小学校教員になる上で役立つかどうか」については平均4.3という高い評価であった。その理由として、人前で発表を経験できることや子どもの反応をすぐに捉えることができること、就学前の子どもと触れ合えること、子どもとの接し方や保護者との関わりに役に立つこと等が記載され、こどもルーム実習は教員としての資質向上に繋がる有用な活動であるとの考えが示されている。

項目②「楽器を使った指導での学び」についても平均4.46という高い評価であった。項目③の「その具体的な内容」として、子どもが楽器を鳴らすのが楽しいと思いがちであることが大切であること、自分なりにリズムを取っている子どもの姿が見られたこと、楽器への関心が生まれたこと等が記載され、子どもが主体的に楽器と関わる姿を受容していることが窺われる。

項目④「公演の第1回目との比較」については、1回目はとても緊張したが、2回目は一緒に楽しもうという気持ちが持てたこと、子どもの姿を見て臨機応変に対応しようとしたこと、子どもを見る視野が広がった等が記載され、2回目には、鑑賞する子どもや親子の様子を見ながら演じるようになったことが分かる。

さらに、項目④「学生支援スタッフ活動の学び」では、子どもと同じ目線になり心を交わし合うことの大切さ、肯定的な声かけや笑顔の大切さ、大人の概念を押しつけずに自由に発想させることの大切さ等が記載され、子どもを見る視点や肯定的な捉えについての学びが示され、学びの深まりを窺い知ることができる。

## 5 まとめ

本稿は、初等教育科小学校・幼稚園コースの学生を対象に実施した「こどもルーム学生支援スタッフ活動」の学びに関する調査研究である。活動を通しての具体的な学びを明らかにすることを目的に、活動終了時にアンケート調査を実施した。その結果、1年後期では、人前で演じることへの緊張が高かったが、2年前期の公演では、子どもの姿を見て臨機応変に対応するなどの技術向上が見られ、継続実施の効果が認められた。さらに、2年前期では、子どもと同じ目線、肯定的な声かけや笑顔、自由に発想させることの大切さが記され、子どもを見る視点、援助や指導手法に言及していることから、学びの質の向上が認められた。これらの考察から、「こどもルーム学生支援スタッフ活動」が小学校教員養成において有用な活動であることが明らかになった。今後は、このような結果を踏まえ、こどもルーム実習における教材活用及び活動のさらなる充実を図る考えである。

## 付 記

本研究を遂行するにあたり、本学科佐藤慶子特任教授他多くの先生方にご協力いただきましたことをここに記し、感謝の意を表します。

## 註

- 1) 平成28年度中央子どもルーム336日開所での利用者数は、116,696名で1日平均347名である。内訳は、幼児(55,250)・小学生(4,078)・中学生(43)・保護者(57,325)名である。

## 参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説』(平成20年10月) 2008 フレーベル館
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 2015 フレー

ベル館

・有本真紀・阪井恵・山下薫子 『小学校音楽科教育法』 2010 教育芸術社

表1. 平成28年度1年後期大型絵本等題名

班	月 日	手 遊 び	大型絵本・エプロンシアター
1	11/20(日) 午前	はじまるよ	へびくんのおさんぽ ばば、お月さまとって!
2	10/23(日) 午後	ころころたまご・こぶたぬきつねこ	たまごにいちゃん・おめんです
3	10/30(日) 午後	とんとんトンネル	へんしんトンネル・ぐりとぐら
4	11/13(日) 午前	いっぽんばし	ふしぎなキャンディーやさん この○△□な～んだ?
5	12/4(日) 午前	さかながはねて・とんとんトンネル	うらしま太郎 くだものいろいろかくれんぼ

表2. 平成29年度2年前期大型絵本等題名

班	月 日	手 遊 び	大型絵本・ エプロンシアター	曲 名
1	6/25(日) 午前	とんとんとんとんアンパンマン	なぞなぞアンパンマン	おもちゃのチャチャチャ
2	6/25(日) 午後	パンダウサギゴアラ	おめんです	やまのおんがくか
3	7/2(日) 午前	とんとんトンネル	へんしんトンネル	しあわせなら手をたたこう
4	7/2(日) 午後	はじまるよ	そらまめくんのベッド	きらきら星





